

## 観光社会資本の事例

テーマ	日本近代建築の名作 ～国立代々木競技場～
<p>【施設の状況写真】</p>  <p>日本を代表する建築家丹下健三氏の設計により、1964年(昭和39年)の東京オリンピックのために建設されました。</p> <p>鉄筋コンクリート造・鉄骨造・高張力鋼サスペンション構造による大小二つの体育館があります。</p>	
<p>【施設の利用写真】</p>   <p>現在、第一体育館は年間を通じ競技フロアが設置されており、体育館やコンサート会場等として利用可能な機能を備えています。</p> <p>第二体育館はオリンピック時と同様、バスケットボール競技のメッカとなっており、全国の競技者のあこがれの会場となっています。他の競技や文化的催しにも利用できます。</p>	
<p>【観光資源としての利用状況】</p> <p>原宿駅から南西方向に見える巨大なランドマークとなっており、東京オリンピックという歴史の1ページを現在にとどめる象徴的な存在となっています。</p> <p>建築的にも、世界に類のない高張力鋼による吊り屋根方式を採用しており、優美な曲線を持つ外観は明治神宮の森の美しい環境と調和し、高い芸術性を持つ作品として評価されています。</p> <p>主要施設としては、約13,700名収容の第一体育館と約3,200名収容の第二体育館があり、スポーツの競技会場の他、大規模なイベントの会場として運営されています。</p>	

テーマ	日本近代建築の名作 ～国立代々木競技場～
<p>【社会資本の基礎データ】</p> <p>名称 国立代々木競技場(旧名称:国立屋内総合競技場)</p> <p>所在地 東京都渋谷区神南 2 - 1 - 1</p> <p>事業名 総合競技場整備事業</p> <p>事業主体 国 ((運営) 独立行政法人 日本スポーツ振興センター)</p> <p>事業期間 昭和39年(完成)</p>	
<p>【社会資本の役割・効果】</p> <p>国立代々木競技場は、日本が国際的に認知されるための東京オリンピック開催を記念する建造物となるように計画されました。</p> <p>通路空間として計画された開放的な屋上プロムナードは道路に接続され、代々木公園、明治神宮と一体的に散策可能な立体的な都市空間を創りだしています。建物内部には岡本太郎氏の原画によるレリーフなどが配されており、建物と合わせ近代の芸術に触れることのできる場所として親しまれています。</p> <p>オリンピックプールとして建設された施設は、夏はプール、冬はアイススケート場として一般公開されてきましたが、現在は一万人以上収容の観客席を有効に活用するため、一年を通じてバレーボール、バスケットボール、体操等のスポーツ競技用体育館として、またコンサートや各種催物のスペースとして利用されています。</p>	
【位置図】	
<p>【関連ホームページ】</p> <p>独立行政法人 日本スポーツ振興センター 国立代々木競技場 <a href="http://www.naash.go.jp/yoyogi/index.html">http://www.naash.go.jp/yoyogi/index.html</a></p>	

